

三原のお宝 歳出しニュース

— 第71号 —

じょうもんどき やよいどき
ここが違う！ 縄文土器と弥生土器

写真①

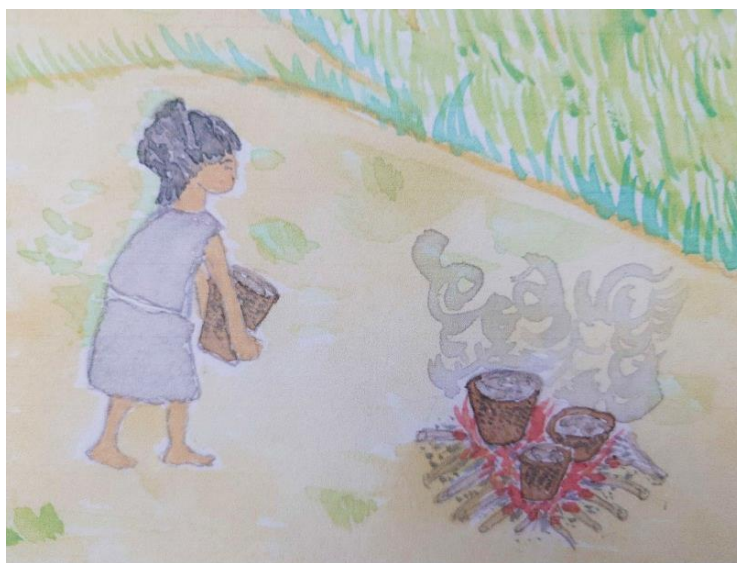


写真①は、^{かいもちいづか}貝持貝塚（小坂町）で出土した^{あさばちがたどき}浅鉢型土器の^{ふくげんひん}復元品です。
土器の^{はへん}破片から、全体の形を想像して復元しました。

写真①は^{じょうもんじだいばんき}縄文時代晩期（約3千年～2千7百年前ごろ）の土器です。

縄文土器は、おもに食べ物を乗せる皿や、たき火の中に直接土器を入れて^{にた}煮炊きする鍋として、日常生活で使われる事が多かったと考えられています。

縄文土器は^{あつて}厚手で壊れやすかったため、完全な形で見つかることが少なく、^{はへん}破片で発見されることが多いです。



一方写真②の土器は、^{やよいしだいこうき}弥生時代後期（約2千年前ごろ）に使われていた^{つぼがたと き}壺型土器です。弥生土器は、調理や食器に加えて保存容器として使われることが多くなりました。

縄文土器と弥生土器の違いは、人々の暮らしと関わっています。縄文時代は主に、魚や動物、木の実などを取って食べる^{しゅりょうさいしゅうせいかつ}狩猟採集生活をしていました。弥生時代に入ると^{すいでんいなさく}水田稲作が盛んに行われるようになり、食べ物を保存する生活へと変化しました。それに合わせて、弥生土器は底が平らで壊れにくい、保存に適した形に変化しました。

資料館では、時代ごとに様々な種類の土器を展示しています。時代と土器の特徴を意識して見学すると、新たな発見があるかもしれませんよ！



縄文土器と弥生土器の違い

	縄文土器	弥生土器
土器の厚み	厚い	薄い
口径	大きい	小さい
^{しょうぶ} 丈夫さ	壊れやすい	壊れにくい
土器の底	丸みがある	平らである



写真②



^{こじんいせき}小陣遺跡（高坂町）で出土した^{つぼがたと き}壺型土器です。
高さが33cmあり、ほぼ完全な形で見つかりました。

三原市歴史民俗資料館
三原市円一町 2-3-2
TEL0848-62-5595
令和6年3月発行

市内遺跡の出土品は
みはらデジタルミュージアム（考古）でも
見られます！



<https://www.city.mihara.hiroshima.jp/site/digital-museum/>

